

日本「アジア英語」学会

ニューズレター

No. 5 (August, 1999)

第5回全国大会 清泉女子大学で開催

テーマ: Impact of English in China

日時: 1999年6月26日(土)

10:00~17:30

会場: 清泉女子大学 講堂

(東京都品川区東五反田3-16-21)

6月26日(土)、清泉女子大学講堂において第5回全国大会が催されました。今回は、初めて海外から特別講演者を招いての大会とあって、盛会となりました。

第5回全国大会プログラム

大会総合司会 吉川寛(中部大学)

9:30 受付

10:00 開会の辞: エリック・ベレント(清泉女子大学)

会長挨拶: 本名 信行(青山学院大学)

開催校学長挨拶: 中尾セツ子(清泉女子大学)

10:10-11:40 特別講演:

Dr. George Lang (University of Alberta, Canada)

"Hardly More Intelligible than Chinese Itself:

A Short History of Chinese Pidgin English"

<講演中の Dr. George Lang>



11:40 - 12:00 会員総会

12:00 - 13:30 昼食休憩

13:30-15:00 研究発表

司会: 大島真(実践女子大学)

1. 「アジアの英語辞典の意義 — Times-Chambers Essential English Dictionary (2nd Edition) を中心に」

久保田信一(明海大学)

2. 「中国の学校英語教育の概況」

張冬冬(常葉学園大学大学院)

3. 「日本の初等教育における英語教育の導入と諸課題についての一考察 — 国際コミュニケーションのための英語の役割認識を視座に」

生越秀子(青山学院大学大学院)

15:00-15:30 休憩

15:30-17:30 シンポジウム

テーマ: The Impact of English in Japanese

Children's Communication Domains

司会: エリック・ベレント(清泉女子大学)

発題:

Naoko Ochi (清泉女子大学)

"A Comparison of the English of Japanese 10-year-olds and Standard Word Lists"

Aya Maeda(清泉女子大学)

"Communicative Competence Reflected in Japanese Children's English Use"

Erich Berendt(清泉女子大学)

"Reflections on the Mental Lexicon of Juniors"

Kathy Matsui(清泉女子大学)

"Teaching English to Juniors: What can Japanese Children do with their English?"

Discussant:

George Lang (University of Alberta, Canada)

閉会の辞: 末延岑生(神戸商科大学)

18:00 懇親会(於 ラファエラ・ホール)

大会をふりかえって

末延岑生(神戸商科大学)

明治を彷彿させる重厚な清泉女子大学の学舎、それをやさしくとり囲む深い緑。小雨がふさわしい朝。開会宣言は、開催校を代表してエリック・ベレント教授が、アジア英語を研究することの重要性、その夢と辛苦を、美しい比喩のなかで述べられた。続いて本名会長が、念願の学会誌が発刊された喜びを分かち合う。清泉女子大の中尾学長は、各国の固有な文化・地方文化を研究することの大切さを説かれ、カトリック信者の場合も、長い歴史のなかで、今でこそやっと自分の国の言葉で祈ることが可能になったと話された。

特別講演は、西洋から見たクレオール、ひいてはアジア英語の視点。それも、忠実な歴史的経過をふまえた、説得性のある示唆に富んだ講演であった。私には、アジア英語も下手をするとクレオールのようになるよ、という暗示に聞こえてしまったのだが、これはひがみかもしれないし、あるいは重要な指摘なのかもしれない。

研究発表1の「アジアの英語辞典の意義」は、最近相次いで発刊されたシンガポール・マレーシアの英語辞典および、オーストラリア英語辞典の作成経過、特徴、問題点を探り、こうした辞書作りは当該地域の学者が収録し、定義し、記録するべきものであること、そして、それこそが各国の言語政策の一部となると指摘した。

研究発表2の「中国の学校英語教育の概況」は、小学校から大学まで、クラスの多くが英語“で”授業をしていること、大学にも指導要領、検定試験制度があり、学生のTOEFLの平均が555点であることなどを知った。

研究発表3の「日本の初等教育における英語教育の導入と諸課題についての一考察」は、当学会ならではの視点から、日本の子供たちにどのような英語を教えるべきかを提議し、英米にとどまらず、アジアをはじめとして諸外国の英語に触れさせることの重要性を指摘した。

シンポジウムでは、開催校の先生と大学院生4名の、長期にわたる日本の子供たちの英語接触に関するグループ・ワークの成果が発表された。2002年から文部省が導入することになった小学4年生からの英語教育に対処する膨大な研究で、子供たちのすでに知っている借入英語約1000語を調査し、その『持ち駒』の一語一語の特徴を詳細に分析・分類、さらにその有用性について考察した。子供たちにとっては宝物であろう借入英語を、今後いかに活かすかという、まさに愛情ほとばしる研究と

の印象を受けた。

全体として、会を重ねるごとに学会の発表内容の深さが増してきたと感ずるのは、私一人ではなからう。

Dr. George Lang 特別講演

“Hardly More Intelligible than Chinese Itself:

A Short History of Chinese Pidgin English”

エリック・ベレント(清泉女子大学)

Dr. George Lang, Professor at the University of Alberta, Canada and Associate Dean of the Faculty of Humanities and Arts, is a well-known specialist in Creole Studies. He has recently published a book on comparative new literatures evolving in creole languages: *Entwisted Tongues: Comparative Creole Literatures* (1999 Amsterdam: Rodopi).

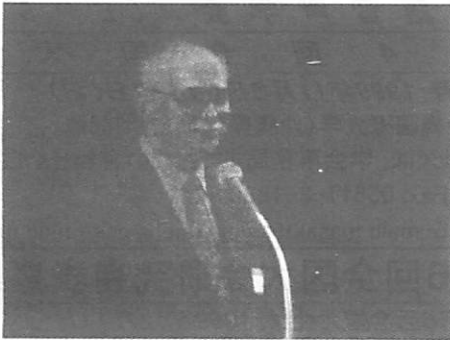
In his keynote speech he focused on two issues: first, the development and intelligibility of Chinese Pidgin English (CPE), and secondly, he discussed the implications from creole linguistic studies of how English is being transformed in Asia. CPE had its origin in the trade “factories” in Canton, south China. These “factories” were initially established by the Portuguese. Dejima in Japan was a model example. CPE was used as a medium of communication between the British East India Company employees (“supercargoes”) and their intermediaries in the Chinese Hong merchants and domestic helpers. After China was defeated in the Opium Wars in 1842, CPE rapidly spread throughout East Asia. It spread as far afield as Japan and the Chinatowns of North America. It survived in anglicized forms into the 20th century, even served as a linguistic vehicle for Henry Wadsworth Longfellow’s poem “Excelsior.” (The first domestics of the foreign community in Yokohama were mainly Cantonese Chinese.)

CPE is based on the structures of Cantonese and was as much influenced by Portuguese – the first international trade language between Europe, Africa and Asia – as English. English dominance in the Asian trade came only in the latter half of the 19th century. G. Lang stated that the evidence of CPE tends to favor theories of creole genesis as resulting from mutual

simplification of languages in contact but with phonology playing as important a role as grammar.

In conclusion, G. Lang turned to Asian Englishes, stating that Englishes in Asia today have a relatively unbroken transmission of grammar from one population to the next. The particular kinds of "limited" input which presided at the birth of most creoles worldwide (which were typical of pre- or early modern trade and international contact) are difficult to imagine in the present age of mass media, mass culture contacts, mass transport, and easy contact through electronic communication.

〈大会実行委員長 エリック・ベレント氏〉



日本「アジア英語」学会 会 則(改訂版)

第1条:(名称)

本会の名称は日本「アジア英語」学会(The Japanese Association for Asian Englishes)とする。以下、本会と記す。

第2条:(目的)

本会は、アジアおよび太平洋地域における英語の普及と多様性に関する諸問題を調査・研究することを目的とする。

第3条:(事業)

本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

1. 全国大会の開催
2. 国際会議の開催
3. ニュースレター及び紀要の発行
4. その他本会の目的を達成するために適当と思われる事業

第4条:(会員)

第2条の目的に関心を持つ者ならば誰でも会員になることができる。本会の会員は、正会員、学生

会員とする。

第5条:(会費・会計)

会員は、会費を納入するものとする。金額は理事会が提案して総会において審議決定する。本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第6条:(役員)

本会に理事長1名、理事若干名をおく。

1. 理事長は、理事の互選により選出され、会務を統括し、会長として本会を代表する。
2. 理事は、暫定的に発起人と発起人が推薦した者をあてる。その間、選挙規定などを準備する。
3. 理事は会員の投票によって選出する。
4. 理事の選出方法は別に定める。
5. 理事の任期は2年とする。ただし、再任をさまたげない。

第7条:(総会・理事会)

本会に総会、理事会をおく。

総会は、正会員、学生会員をもって組織し、本会の議決機関として本会の事業及び運営に関する重要事項を審議決定する。

理事会は、理事長及び理事をもって組織し、第3条に定める事業並びに収支予算及び収支決算に責任を負い、執行の任に当たる。

第8条:(事務局)

本会は、事務局を白百合女子大学内におく。

第9条:(改正)

本会則は、総会出席者の3分の2以上の同意を得て改正することができる。

付則:この会則は、1998年(平成10年)1月31日の日本「アジア英語」学会第2回全国大会の総会において制定し、その日より発効する。

紀要編集委員会より

6月1日に記念すべき『アジア英語研究』創刊号を発行いたしました。6月26日の第5回全国大会当日に参加いただいた方にはすでに会場で配布しておりますが、その他の会員にはこのニュースレターとともにお手元に届いていることと思います。

創刊号には4件の学術論文と2件の書評を掲載しました。論文の内容は、東南アジア諸国連合の公用語としての英語使用に関するもの、わが国の入試英語を分析し、その改善のための提言をしたもの、韓国における英語教員養成の現状を論じたもの、そして国際言語としての英語の普及と言語マーケティングを論じたものなど、まさにアジアにおける英語研究の最前線ともいべき内容の濃い

論文を掲載できました。また、書評は小野原信義氏の『フィリピン言語政策と英語』、そしてダニエル・ロング氏らの『小笠原諸島の言語文化』の2件です。会員のみならず是非とも創刊号をご一読いただき、ご意見などありましたら学会事務局までお知らせいただければ幸いです。また、第2号への投稿もお待ちしております。投稿締め切りは11月末日です。

なお、ご承知のとおり、本学会は年会費が格安のため、紀要の発行につきましても最低限の予算で取り組んでおります。そのため、今後は投稿規定をかなり詳細に取り決め、寄稿いただいた原稿をそのまま写真製版で印刷にかけられるようにしたいと考えております。事情をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

会員による新刊図書

『アジアをつなぐ英語—英語の新しい国際的役割』本名信行著 アルク刊 1999年

『コーパス活用 英語基本語彙の使い方辞典』エリック・ベレント、竹蓋幸生編著 語研刊 1999年

事務局から

6月26日の第5回全国大会において、第4回会員総会が開かれました。総会の内容は以下の通りです。

1. 理事選挙に関する細則について

第3回会員総会で了承されました通り、理事の任期は2000年3月31日までとなっております。したがって、次期理事の選挙を理事選挙に関する細則に基づき今年12月末までに理事長が選挙管理委員会を任命し、選挙の準備をいたします。

2. 学会会則の改訂について

学会会則第6条3項から5項を追加し、改訂いたしました。改訂部分は、以下の通りです。

第6条3項 理事は会員の投票によって選出する。

同 4項 理事の選出方法は別に定める。

同 5項 理事の任期は2年とする。ただし、再任をさまたげない。

3. 学会紀要について

学会紀要『アジア英語研究』(Asian English Studies)創刊号ができました。全国大会に出席した会員にはお配りしました。

4. 会計報告

会計担当の竹下理事より1998年度収支決算の報告があり、さらに1999年度の予算案が提出され、どちらも了承されました。

5. 次大会について

第6回全国大会は、大阪府和泉市の桃山学院大学にて12月11日(土)におこないます。(大会実行委員長は、同大学 橋内武)

他学会からのお知らせ

第31回白馬夏季言語学会

日時: 1999年8月20日(金)から23日(月)

8月22日の集中講義では、当学会の本名信行会長、理事の田嶋ティナ宏子、吉川寛が「アジア英語の研究テーマとその方法」と題してシンポジウムをいたします。

詳しくは、学会事務局へお問い合わせください。

FAX: 052-774-3677

E-mail: yskw@clc.hyper.chubu.ac.jp

英語音声学会 (EPSJ) 第4回全国大会

日時: 1999年11月6日(土)・7日(日)

沖繩国際大学(沖繩県那覇市)で開催。

詳しくは、学会事務局までお問い合わせください。

Fax: 05617-3-1860,

E-mail: masakits@dpc.aichi-gakuin.ac.jp

第6回全国大会研究発表募集

第6回全国大会は、1999年12月11日(土)に大阪府和泉市の桃山学院大学にておこないます。研究発表を希望される方は、要旨(日・英どちらか)をA4用紙1枚にまとめて、10月15日(金)必着で、事務局までお送りください。

Call for papers for the 6th National Conference at St. Andrew's University in Osaka (Dec. 11, 1999)

The Conference Committee invites submission of abstracts for papers. Submission is by mail, fax or e-mail. Abstracts for papers should be no more than 250 words in length. The deadline of the abstracts is Friday, October 15, 1999. Please send it to the JAF AE Secretariat (address below).

1999年8月5発行

編集・発行 日本「アジア英語」学会

代表者 本名信行

編集長 榎木園鉄也

発行 (有)タナカ企画

事務局 〒182-8525

東京都調布市緑ヶ丘1-25

白百合女子大学

田嶋宏子研究室内

TEL: 03-3326-5050 (代)

FAX: 03-3326-4550

E-mail: tina2@gol.com